

平成27年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	ゼミナールⅣ(Seminar Ⅳ)		授業コード	E002707
担当教員名	森田 和子		科目ナンバリングコード	E41204
配当学年	4	開講期	前期	
必修・選択区分	必修	単位数	4	
履修上の注意または履修条件	卒業に必要な単位を満たせていない学生は、講義科目をまずしっかり受けること。			
受講心得	自ら計画を立て、自主的に研究することが必要です。			
教科書	池上岳彦編「現代財政を学ぶ」(有斐閣)			
参考文献及び指定図書	テーマに沿った文献は自分で探します。インターネットの場合は、内容の信憑性を見極めることが必要。			
関連科目	履修した科目の中から参考になるところを活用していきます。			

授業の目的	卒業論文の作成を通じて、構想力・情報収集力・分析力・発表力を養うことを目的とします。
授業の概要	ゼミナールⅣはゼミ論文をまとめるための研究指導の時間となります。つまり、これまでの受身の勉強から、自ら考え、まとめていく過程を学んでもらいます。したがって各自で資料をもちより発表してもらい、全体で討論し意見交換するなどが主な活動となります。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週： 前期 第1回 履修の確認と4年ゼミの年間計画。 後期 第1回 ゼミ論文のテーマの確認。	前期は資料講読から始める。 後期は論文の中間報告。
第2週： 第2回 ゼミ論文の説明。テーマ設定、構成など。 第2回 中間報告の順番を決める。	4年ゼミは各人でテーマを決め、自主的に研究を進める。
第3週： 第3回 基礎演習(1) 資料講読と内容把握。 第3回 中間報告(1)	順番を決め、1回以上発表を行う。
第4週： 第4回 基礎演習(2) 資料講読と内容把握。 第4回 中間報告(2)	前期は資料の復習、後期は各自の発表の準備をする。
第5週： 第5回 基礎演習(3) 資料講読と内容把握。 第5回 中間報告(3)	前期は資料の復習、後期は各自の発表の準備をする。
第6週： 第6回 基礎演習(4) 資料講読と内容把握。 第6回 中間報告(4)	前期は資料の復習、後期は各自の発表の準備をする。
第7週： 第7回 基礎演習(5) 資料講読と内容把握。 第7回 中間報告(5)	前期は資料の復習、後期は各自の発表の準備をする。
第8週：	

第8回 基礎演習(6) まとめ。資料の要旨を発表。 第8回 中間報告(6) 本年は消費税増税とその影響についてを資料をもとに研究します。	前期は資料の復習、後期は各自の発表の準備をする。
第9週： 第9回 論文作成講座(1) テーマ設定と参考文献。 第9回 中間報告(7)	前期は論文作成の手順、後期は発表の準備を行う。
第10週： 第10回 論文作成講座(2) 資料の種類と収集方法。 第10回 中間報告(8)	前期は論文作成の手順、後期は発表の準備を行う。
第11週： 第11回 論文作成講座(3) 章の構成を考える。 第11回 中間報告(9)	前期は論文作成の手順、後期は発表の準備を行う。
第12週： 第12回 論文作成講座(4) 章の構成の修正など。 第12回 中間報告(10)	前期は論文作成の手順、後期は発表の準備を行う。
第13週： 第13回 論文作成講座(5) 注と参考文献の書き方。 第13回 最終確認(1)	書き上げた論文の推敲をする。
第14週： 第14回 論文作成講座(6) 実際に資料からアウトラインを書く。 第14回 最終確認(2)	前期は論文の方向性を決める、後期は論文提出の準備。
第15週： 第15回 論文のテーマと要旨の発表。グループ分け。 第15回 最終確認(3)	前期は論文の方向性を決める、後期は論文提出の準備。
第16週：期末試験 試験は実施しません。前期は論文の仮テーマと要旨、参考文献一覧をレポートで提出。後期は完成したゼミ論文の提出、発表、質疑応答を行います。	前期は論文の方向性を決める、後期は論文提出の準備。
授業の運営方法	(1)授業の形式 「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式
	(3)アクティブ・ラーニング
地域志向科目	該当しない
備考	

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	個人で研究する場合も共同で研究する場合も自主的に研究する姿勢を評価する。発表や提出の期日を守り、他のメンバー、グループの発表もよく聞いて相互に学びあうこと。
【知識・理解】	選んだテーマについて研究し、知識を深める。
【技能・表現・コミュニケーション】	ワープロでの論文作成に慣れ、パワーポイントで要旨を発表できる能力を養う。
【思考・判断・創造】	参考文献によりながらオリジナルなテーマ設定をし、書きたいことの構想を練る。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	

【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。	20点	20点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	10点	10点	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	10点	10点	
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	10点	10点	

(「人間力」について)

※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	中間報告を行い指導を受けたのち、完成した論文を提出する。
発表・その他 (無形成果)	完成度の高い論文は学部のゼミ論発表会で発表。